

平成 23 年度環境技術実証事業検討会
閉鎖性海域WG (第 2 回)におけるご指摘への対応方針

会議名	閉鎖性海域における水環境改善技術 WG 会合(第 2 回)
日 時	平成 24 年 1 月 24 日(火) 15:00~16:40

指摘番号	閉海 WG2 資料 2、参考資料 2
指 摘 者	岡田座長、松田検討員
指摘内容	<ul style="list-style-type: none"> ・資料2における「人工腐植土」、「酸性資材」、参考資料2では「ネクストソイル」と同じものにばらばらの呼称を付けているのは、直していただきたい。 ・人工ミネラル-M型の成分である「その他1vo1%」を明確にしていきたい。
対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ・「人工腐植土」他は統一した呼称とし、「その他 1vo1%」は鉄粉と明記しておく。 ・申請時の名称を「人工ミネラル-M (I) 型」とし、最終的な名称は「人工ミネラル-M 型」とする。

指摘番号	閉海 WG2 資料 2
指 摘 者	松田検討員
指摘内容	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 2 の「人工ミネラルの持続性を評価するためのデータを取得する」とは、具体的にどういうデータを取得し、どのように評価をされる予定か。
対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロック直上の人工ミネラルと、周辺の海水において、ミネラル分の濃度を測ることにより、その差分を比較する。また、ミネラル残量と時間の関係を捉え、ミネラルの持続性について明らかにしていく予定である。

指摘番号	閉海 WG2 資料 2
指摘者	西村検討員
指摘内容	<ul style="list-style-type: none"> ・最初に珪藻が着生することによって、その次のサンゴモが付きにくくなるという効果がものすごく効くのであれば、それはこの技術の重要なところだと思う。
対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ・大変貴重なご意見いただいたと捉えている。今後、更に実験データを蓄積することで、新たな知見が見いだせる可能性があると考えている。

指摘番号	閉海 WG2 資料 2
指摘者	中嶋検討員
指摘内容	<ul style="list-style-type: none"> ・既設魚礁や磯焼けが起きた場所に「人工ミネラル-M」を持っていけば、同じような効果が期待できるのか、あるいは既存の付着物を掃除して新しい面を出したほうがいいのか。
対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ・同じような効果は期待できるが、断定はできない。磯焼けした場所においては、食害生物の影響もあるので現段階では明言できない。

指摘番号	閉海 WG2 資料 2
指摘者	中村検討員、岡田座長
指摘内容	<ul style="list-style-type: none"> ・A 区画と B 区画で水深帯が違うので、光の条件を基本データとして押さえておいた方がよい。 ・試験区と対照区の差について有意差があるかないかの検定をするときに必要になるため、測定データのばらつきも評価しておいたほうがよい。
対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ・光量子については、現在、鉛直計測で行っている。 ・観測したデータは、ブロック別に持っているため、一度、データのばらつきを検定してみる。